

＝えどがわエコセンターと協働で環境学習を推進するモデル校＝

# 平成 28 年度 グリーンプラン推進校 報告書



特定非営利活動法人 **えどがわエコセンター**

環境教育・人材育成委員会



### 3.平成28年度グリーンプラン推進校

小学校（8校）

西葛西小学校 清新第一小学校 瑞江小学校 下鎌田西小学校  
本一色小学校 篠崎第二小学校 下小岩第二小学校 北小岩小学校

中学校（2校）

瑞江第二中学校 小岩第四中学校

## 目次

	中間報告	最終報告
西葛西小学校	・・・ p. 4	・・・ p. 26
清新第一小学校	・・・ p. 6	・・・ p. 28
瑞江小学校	・・・ p. 8	・・・ p. 30
下鎌田西小学校	・・・ p. 10	・・・ p. 32
本一色小学校	・・・ p. 12	・・・ p. 34
篠崎第二小学校	・・・ p. 14	・・・ p. 36
下小岩第二小学校	・・・ p. 16	・・・ p. 38
北小岩小学校	・・・ p. 18	・・・ p. 40
瑞江第二中学校	・・・ p. 20	・・・ p. 42
小岩第四中学校	・・・ p. 22	・・・ p. 44



平成 28 年度  
グリーンプラン推進校  
中間報告

## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	西葛西小学校	対象学年と人数	ビオトープ委員会児童（24人） 巣箱づくり希望者（50人）
活動名	西小グリーンプラン		
指導者	学内指導者：校長、副校長、ビオトープ委員会担当教諭 学外支援者：ビオトープ学校応援団、巣箱づくり応援団		

#### 目標

- ビオトープを中心に、植物や生き物と身近にふれ合える環境を整える。
- 学校応援団の協力を得て、校内の樹木に野鳥のための巣箱を設置し、野鳥の保護をするとともに野鳥について学ぶ。

#### 進捗状況

- 年度初めに、ビオトープ学校応援団参加者を集め、常時活動の内容や取り組み方、作業の曜日などを決めた。
- 委員会活動の時間に、ビオトープ設置時から活動を続けている方に話を伺ったり、ビオトープの維持のしかたを教えていただいたりした。
- ビオトープに根付いている植物や、ここに集まる昆虫などを写真で記録し、ビオトープ紹介のためのデータを収集している。
- 夏季休業中に、巣箱づくり学校応援団の協力を得て、巣箱づくりを行った。希望作品を巣箱コンクールに出品するとともに返却後11月に、校庭に巣箱を設置する予定である。

活動写真等

ビオトープのようす



巣箱づくりのようす



## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	清新第一小学校	対象学年と人数	4年94名
活動名	清一小4年環境学習		
指導者	学内指導者：三神、奥澤、陸川 学外支援者：(自然観察指導員・環境カウンセラー) 高木 嘉雄、青山 やす子		

#### 目標

学校近隣の自然や、そこに生きる生き物についてしらべることにより、自然環境について学んでいく。

#### 進捗状況

6月・・・えどがわエコセンター 出前授業・・・本校体育館

えどがわエコセンタープログラム No.10「荒川の生き物調べ」

講師 (自然観察指導員・環境カウンセラー) 高木 嘉雄、青山 やす子

○2学期より、各クラス(3クラス)で水槽等を購入し、学校近くでとれた生き物を飼育することにより、自然環境について考えていく。1学期は、そのための準備(事前学習)を進めている。



活動写真等

6月23日(木)の出前授業の様子



子どもたちも興味を持って取り組んでいました



## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	瑞江小学校	対象学年と人数	全学年 473名
活動名	瑞小の環境学習		
指導者	学内指導者：全教職員 えどがわエコセンター副理事長 大和地弘一先生（環境学習）予定		

#### 目標

- 空き缶、プルタブ、エコキャップの回収活動を通して、児童がリサイクルに対する意識をもつ。
- ゴーヤを育て、緑のカーテンを作ったり、環境ポスターを作ったりすることで、節電に対する意識を高める。
- 観察池の掃除や観察などを通して、身近な自然と触れあい、環境を大切にする態度を高める。
- 学校農園「瑞江の園」で、リサイクル堆肥を使って野菜作りを行い、愛情をもって植物を育てる。
- 学校農園「瑞江の園」やプランターでリサイクル堆肥を利用した花壇作りを行い、花いっぱい運動を行う。
- 総合の授業で「地球の環境にやさしい生活」について学び、日々の生活に生かす。

#### 進捗状況

- 毎週金曜日の朝、校門の前で回収活動を行い、空き缶やプルタブ、エコキャップが多く集まることで興味をもちながら、リサイクルに対する意識が高まってきた。
- 環境意識を高めるポスターを作ることで、自分たちに何ができるのか考えながら、節電に対する意識を高めることができてきた。緑のカーテンを育てることができた。
- 飼育委員会で、毎日観察池の掃除を行い、池の生き物と触れ合った。6月には、プールのヤゴ救出作戦を行い、救出したヤゴを観察池に放した。委員会の時間には、観察池の水質調査（ph、CODの測定）を行い、観察池の水質保全に努めた。
- リサイクル堆肥を使って、野菜作りを行った。1学期には、トマト、キュウリ、ピーマン、ラディッシュ、ナス、ジャガイモなどを収穫した。児童は、苗植え、水やり、草取り、収穫などの一連の栽培活動を通して野菜の成長に興味をもち、愛情をもって育てることができた。
- 低学年では、「瑞江の園」でリサイクル堆肥を利用し、マリーゴールド、ブルーサルビア、ポチュラカなどの花を育てたり、ナスやトマトなどの野菜作りを行った。プランターにも花を育て、正面玄関を飾った。
- えどがわエコセンターの環境カウンセラーによる出前授業を、12月までにに仲よし学級（3～6年）で実施予定。



活動写真等

☆環境委員会での取り組み☆

エコキャップ、プルタブ、空き缶の  
回収活動



☆仲よし学級での取り組み☆



リサイクル堆肥を使った  
花、野菜作り

☆4年生のゴーヤカーテン☆



ゴーヤの  
グリーンカーテンづくり

☆飼育委員会での取り組み☆

ヤゴ救出作戦



観察池の水質調査



## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	下鎌田西小学校	対象学年と人数	5. 6年栽培委員会 20名
活動名	西小グリーンマックス		
指導者	学内指導者：前田修郎 学外支援者：学校応援団栽培班花壇ボランティア (役割分担) 代表 西城, 畑間		

#### 目標

校内緑化活動を通して緑に親しみ、自然を大切にできる心情を育てたり収穫したものを実生活に生かしたりして自然と共生する心を育てる。

#### 進捗状況

- 6 / 3 (金) 学校園の活用計画を立てる。
- 6 / 30 (木) 雑草取り→根っこから抜いて指定の場所に運ぶ。  
ひまわり・葉ボタンの移植→プランターで育った苗を花壇の土に移植する。  
ゴーヤの種取り→種を取ってまく。グリーンカーテンにする。
- 7 / 7 (木) ミニひまわり, マリーゴールド, ペンタスの移植
- 9 / 1 (木) ひまわりの種取り 花がら摘み ゴーヤの種の収穫
- 15 (木) ひまわりの種取り 花がら摘み ゴーヤの種の収穫



活動写真等



プランターで育った苗を花壇の土に移植



手作りネームプレートをさした様子



ネームプレートの様子2



グリーンカーテンの様子



ネームプレートの様子 (花だんにさす前)



雑草取りをして、大切に育てました。

## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	本一色小学校	対象学年と人数	3年生 72人
活動名	本一色グリーンプラン		
指導者	学内指導者： 本宮雅俊教諭、長倉礼奈教諭、増田幸子教諭 学外支援者： えどがわエコセンター 講師： 大和地 弘一		

#### 目標

植栽活動を通して、自然や環境に関心を持ち、

生命尊重や自然を大切にする態度を育てる。

#### 進捗状況

##### ○出前授業

えどがわエコセンター環境教育プログラム（No. 2 地球の環境にやさしい生活を学ぶ）を実施。  
エコとは何かを学び、日常の生活でできることを見つけ、子どもたちの環境への意識を高めた。

##### ○植栽活動

学校農園、学級園・田んぼ、を活用して植物を育てている。  
植物を育てながら、緑の環境を増やしている。



活動写真等

環境教育プログラム



植栽活動



## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	篠崎第二小学校	対象学年と人数	全校 395名
活動名	学校緑化アーカイブ		
指導者	学内指導者：全教職員 学内外支援者：用務主事、PTA		

#### 目標

- 学校全体の緑化事業について、継続的に記録を行う。
- 植物栽培の記録を通して、手入れをする児童や教職員の意識や意欲を向上させる。
- 学校ホームページを通じて、本校の緑化活動の様子を広く、一般の方々にも周知していく。

#### 進捗状況

通年	学校ホームページによる緑化活動の報告
4月	農園の整備（草取り、土づくり、肥料散布）
5月～	各学年の栽培活動 1年：アサガオ 2年：ミニトマト、ナス、キュウリ、枝豆 3年：ハウセンカ 4年：ゴーヤ、ハチマ 5年：イネ（米） 6年：ジャガイモ 理科栽培委員会、主事：白花ハウセンカ、ナス、トマト、トウモロコシ、オクラ等 随時草取り



学校名

篠崎第二小学校

活動写真等



1年生 トウモロコシの皮むき



2年生 ミニトマトの栽培



4年生 ゴーヤの栽培



5年生 田植え



6年生 ジャガイモの種芋植え



夏野菜の収穫

## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	下小岩第二小学校	対象学年と人数	5年生28名
活動名	地球の環境問題って何だろう。		
指導者	学内指導者：小高 美和 学外支援者：えどがわエコセンター（出前授業講師）大和地 弘一、伊藤 尊司		

#### 目標

○エコセンターの出前授業で、地球の環境問題について5年生の子どもたちに地球温暖化の原因や影響、現状等を伝える。また、地球温暖化への取り組みとして世界や日本、江戸川区の活動を知る。

○学校に緑のカーテンを作り、エアコンの消費電力を抑え、省エネ効果を高める。

#### 進捗状況

6月25日(土)の学校公開にエコセンターの方に来ていただき、5年生の子どもたちに地球の環境問題についての授業をした。

緑のカーテンを主事さんに協力していただきながら、現在も5年生の子どもたちが手入れを行っている。



学校名

下小岩第二小学校

活動写真等



## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	北小岩小学校	対象学年と人数	①5・6年②1年③4年 ④全学年
活動名	①石油について考えよう②自然のたより③みどりの教室 ④給食残食ボード		
指導者	学内指導者：校長奥澤弘子 各学年担任 学外支援者：東京海上日動火災保険株式会社		

#### 目標

さまざまな面から環境問題について学ぶことで、環境問題について興味をもち考えるきっかけにする。

#### 進捗状況

##### ①石油について考えよう

校長が5・6年生に石油についての授業を行いました。その後教室で各担任が事後指導を行い、全員が石油について自分で調べたことや感じた事を作文に書きました。

石油を使ってきた歴史のことや、どのように出来るのかという事を調べ、限りある資源を大切にしようという考えをもつ一方で、石油などのエネルギーを使う生活が地球温暖化につながっているという考えを書く子もいました。何気なく使われているエネルギーについて違う視点で考えるきっかけになりました。

##### ②自然のたより

1年生で行っている活動です。自分の家や校庭、通学路などでみつけた自然のもの、(種・実・花・その他植物や石)を教室で発表するというものです。自分で見つけてきたものを、嬉しそうに持ってきたり、落ちている石を他の物に例えて表したりと興味をもって身の回りの物を見つけることができるようになってきました。

2学期は持ってきた種を土に植えたらどうなるかということに興味をもって活動しています。1年間継続してできるようにしたいと思っています。

##### ③みどりの教室

東京海上日動火災保険株式会社によるマングローブ植林活動を題材に地球温暖化防止や生物多様性、人々の生活との関わりについて楽しみながら学ぶ活動を10月6日に予定しています。

##### ④給食残食ボード

児童玄関前に給食の残食が分かるボードを置くことで残さず給食を食べるという事を意識できるようにしています。



活動写真等

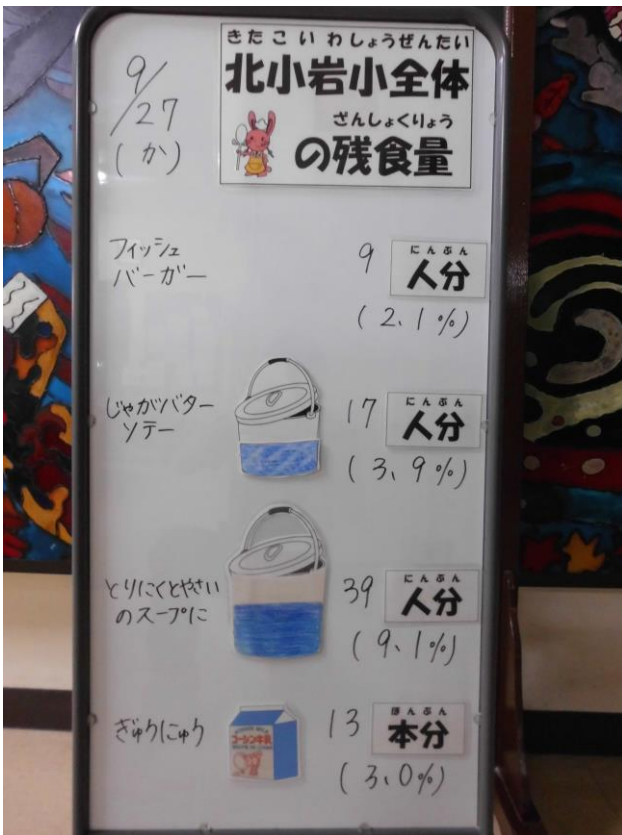
①校長先生による石油の授業の様子



②自然のたよりの時間



④給食残食量ボード



## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	瑞江第二中学校	対象学年と人数	全学年 386名
活動名	Clean & Green Project		
指導者	学内指導者：山口孝（校長）、大林博（副校長）、中嶋靖（美化担当）、学年主任、 用務主事 学外支援者：江戸川区土木部、えどがわ環境財団、本校PTA、PTAOB会、 学校応援団 （役割分担）全体統括：校長、花壇整備：副校長 美化担当 地域清掃・公園美化：学年主任		

#### 目標

- 1 学校花壇の整備を通し、緑化や美化の推進に対する意識を高める。
- 2 地域の清掃を通し、生活環境を美しく保つことの大切さを体験的に学ぶ。
- 3 学校応援団、PTA、PTAOB、用務主事等の様々な方とのふれあいを通し、地域に貢献することの意義を学ぶ。

#### 進捗状況

- ・6月 2日（木）学校応援団、PTA、PTAOB、用務主事、  
生徒ボランティア（全学年）による学校花壇整備。  
パンジー等の抜き取りと土の耕しを行った。
- ・7月 6日（水）3学年生徒による地域美化活動及び公園の緑化作業。  
路上のごみ拾いと近隣公園の清掃及び緑化作業を行った。
- ・同日 学校応援団、PTA、PTAOB、用務主事、  
生徒ボランティア（1・2学年）による学校花壇整備。  
春から秋の草花（ペゴニア等）と水仙の球根の植え込みを行った。

生徒の環境整備に対する意識が高まっているため、ボランティアの人数制限を今年度は、撤廃した。  
2学期以降は、花壇等の整備に加え校内美化活動を行っていく。



学校名

瑞江第二中学校

活動写真等

ボランティアによる活動



用務主事によるパンジーの抜き取り説明



パンジーの抜き取り作業



地域の方の協力



ベゴニアの植え付け



近隣公園の緑化作業



## 平成28年度

### えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	小岩第四中学校	対象学年と人数	2、3年有志10名 および1年生全員
活動名	学校や地域に緑を増やそう		
指導者	学内指導者： 鈴木 幸雄（副校長） 学校園担当 高橋 知之（1年学年主任） プランター担当 学外支援者： 若松喜美子（学校応援団 団長） 菊づくり担当		

#### 目標

学校や地域に緑を増やし、環境に対する意識を高める。

そのため生徒有志によるグリーンスタッフを編成し、下記の活動をする。

- ①学校応援団とともに菊づくりに挑戦する
- ②学校園を整備し、さつまいもを栽培する
- ③ゴーヤカーテンをつくる
- ④プランターをつくり、地域を飾る

#### 進捗状況

上記の目標にある活動①～④について、進捗状況は以下の通りである。

- ①菊の苗を鉢に移し替え、鉢を整備した。度重なる台風により、何度も校舎内に避難させるなど大切に育てている。今年は摘出した苗の状況があまり良くなく、例年に比べてやや小ぶりの花になりそうだ。
- ②5月下旬に土に肥料を加え、6月に入ってから苗を植えた。苗は順調に成長し、学校園いっぱい葉を広げている。乾燥を好む植物なので、8月以降は水やりをやめ、自然にまかせてある。10月下旬には収穫し、文化祭で展示できそうである。
- ③ゴーヤは7月の段階で一階の窓を覆う程度に成長し、夏場、ゴーヤカーテンの役割を果たした。夏季休業中は順番を決めて、水やりをした。7月下旬ころから花が咲き、8月には実の収穫ができるようになった。今まで30個以上のゴーヤが獲れた。12月には撤去する予定である。
- ④1月に入ってから、プランターとパンジー等を購入。1年生全員で1月下旬にプランターをつくり、地域に飾り、卒業式の前に学校に戻す予定である。



学校名

小岩第四中学校

活動写真等

①菊づくり



8月4日 まだ小鉢で育成



9月14日 少しずつ菊らしくなる

②学校園でのサツマイモ栽培



8月下旬の段階で、学校園いっぱい広がった



③ゴーヤカーテン



1階の窓を覆いつくすゴーヤカーテン



9月下旬でも収穫できる



平成 28 年度  
グリーンプラン推進校  
最 終 報 告

平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	西葛西小学校	対象学年と人数	ピオトープ委員会児童（24人） 巣箱づくり希望者（50人）
活動名	西小グリーンプラン		
指導者	学内指導者：校長、副校長、ピオトープ委員会担当教諭 学外支援者：ピオトープ学校応援団、巣箱づくり応援団		

### 目標

- ・ピオトープを中心に、植物や生き物と身近にふれ合える環境を整える。
- ・学校応援団の協力を得て、校内の樹木に野鳥のための巣箱を設置し、野鳥の保護をするとともに野鳥について学ぶ。

### 成果

- ・身近に自然を感じることができるピオトープは、都会のオアシス、子供たちの憩いの場として、その役割を担っている。セミの抜け殻を見付けたり、トンボが水面に産卵する様子が見られたり、ヨモギやススキ、ガマノホ、ヒガンバナなどが生えているのを見付けたりと、四季折々の草木や草花、昆虫を観察する良い環境となっている。
- ・ピオトープにも巣を作るスズメやシジュウカラなどの巣箱を作る活動を今年も昨年に引き続き継続して行うことができた。また、昨年度の巣箱と交換した際に、いくつかの巣箱に営巣の跡が見られたことから、微力ではあるが、都会に生息する鳥たちのために役立ったことが確認できた。

### 感想・課題等

- ・ピオトープのことをよく知らないと、自宅で飼っていたカメや魚を放してもよい場所とってしまうようである。しかし、以前、外来種の「カダヤシ」が見付き環境を復元するために苦労したことがある。そうならないためにも、ピオトープについて積極的にPRをしその大切さを啓発していく必要があると感じている。
- ・ピオトープの環境は、ピオトープ委員会に所属する児童の休み時間等を使った常時活動や保護者や地域の方の協力による「ピオトープ応援団」の継続的な維持活動で成り立っている。ピオトープの意義を伝えたり、環境を守るために、委員会児童は、校内ポスターを掲示したり、委員会紹介の場を利用して、PRを行ったりした。
- ・ピオトープを今後も、長く継続して維持するためには、児童だけではなく、地域や保護者の方が協力して活動することが不可欠であると感じている。活動する時間帯や曜日を無理のない範囲で互いに補完しながら活動していくことが必要である。そのためにも、ピオトープボランティアの数が少しでも増えていくことが望まれる。積極的にPRをし参加者を募っていきたい。



学校名

西葛西小学校

活動報告（活動写真）

ビオトープのようす



巣箱づくりと巣箱かけのようす



野鳥のお話（愛鳥モデル校における鳥と自然環境を学ぶプログラム）



平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	清新第一小学校	対象学年と人数	4年生94名
活動名	清新第一小学校4年 環境学習		
指導者	学内指導者： 三神、奥澤、陸川 学外支援者： 高木 嘉雄（江戸川区子ども未来館）、青山 やす子（イノシシ倶楽部）		

### 目標

- 学校近隣にある川や自然や、そこに生きる生き物についてしらべることにより、自然環境について学んでいく
- 副読本等を使用し、総合学習の授業の中で環境保全について学習する
- 展覧会の共同作品で環境学習と関連付けた作品を作る
- 近隣の川や海にいる生き物を飼育することにより、自然環境についての学習を深める

### 成果

- 6月：出前授業：本校体育館 「身近な自然にふれてみよう・いきものさがし」  
高木 嘉雄（講師） 環境に対する興味・関心の向上。
- 3Rの副読本を使って、総合的な学習の時間での授業により、環境保全について興味・関心が向上する
- 学年共同作品「エコモザイク・荒川の風景」を作成し、1学期からの学習をまとめ、展覧会で発表する
- 各クラス水槽を購入、11月より近隣の川や海でとれた生き物を飼育することにより、さらに自然環境について日常的に考えるようになった

### 感想・課題等

環境学習に取り組んだことで、今まで意識しなかった近隣の川や海について子供たちは興味を持つことができた。自分たちの住んでいる地域ということもあり、自然に学習を深めていく子供たちの姿は、教員側も教える意欲が高まり大変充実した学習になった。

今後の課題としては、これを1年だけで終わりせず、5・6年生とつなげていけるように引き継ぎをしていくことである。



学校名

清新第一小学校

活動報告（活動写真）



6月の出前授業



9月3日の授業



水新聞の作成



エコモザイク・荒川の風景（展覧会・学年共同作品）



クラス水槽で飼育。浦安でとれたスズキです。ハゼもいます。



近隣の川でとれたカニ、エビがいます

平成28年度  
 えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	瑞江小学校	対象学年と人数	全学年 471名
活動名	瑞小の環境学習		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：えどがわエコセンター副理事長 大和地弘一先生（環境学習）		

### 目標

- 空き缶、プルタブ、エコキャップの回収活動を通して、児童がリサイクルに対する意識をもつ。
- ゴーヤを育て、緑のカーテンを作ったり、環境ポスターを作ったりすることで、節電に対する意識を高める。
- 観察池の掃除や観察、サケの飼育などを通して、身近な自然と触れあい、環境を大切にする態度を高める。
- 学校農園「瑞江の園」で、学校給食から出たリサイクル堆肥を使って野菜作りを行い、愛情をもって植物を育てる。
- 学校農園「瑞江の園」やプランターでリサイクル堆肥を利用した花壇作りを行い、花いっぱい運動を行う。
- 総合的な学習の時間で「地球の環境にやさしい生活」について学び、日々の生活に生かす。

### 成果

- 毎週金曜日の朝、校門の前でエコキャップ、プルタブの回収活動を行い、リサイクルに対する意識が高まってきた。
- 環境意識を高めるポスターを作ることで、自分たちに何ができるのか考えながら、節電に対する意識を高めることができた。緑のカーテンを育てることができた。
- 飼育委員会で、観察池の掃除や水質調査を行い、観察池の水質保全に努めることができた。6月には、プールのヤゴ救出作戦を行い、12月からは、サケを卵から育てる活動に取り組んだ。環境や生き物を大切にする態度を育むことができた。
- リサイクル堆肥を使って、野菜作りや花を育てる活動を行った。栽培活動を通して野菜や花の成長に興味をもち、愛情をもって育てることができた。

### 感想・課題等

- さまざまなエコ活動を通して、児童のリサイクルや自然に対する関心が高まってきた。
- 地域の清掃活動をすることで、児童のゴミに対する意識を高めることができた。また、地域の方に学校での取り組みを理解していただくことができた。
- 興味をもって生き物の飼育や観察をする児童の姿が多くなった。高木先生と一緒に池の生物調査を行い、生息している生き物の名前を教えていただくことで、環境や生き物に対する児童の興味関心が高まった。このような活動を今後も続けていきたい。
- リサイクル堆肥を使って草花を育てることにより、植物を育てることの喜びややさしい心を培うことができた。
- 学外支援者に学校に来て授業をしていただくことで、児童はもちろん、教師も大変勉強になった。今後も、外部の方と連携して環境学習を進めていきたい。



学校名

瑞江小学校

活動写真等

☆環境委員会での取り組み☆



ゴーヤの  
グリーンカーテンづくり



エコキャップ、プルタブ、空き缶の  
回収活動

☆仲よしでの取り組み☆



リサイクル堆肥を使った  
花、野菜作り



通学路のゴミ拾い活動



☆飼育委員会での取り組み☆



平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	下鎌田西小学校	対象学年と人数	5. 6年栽培委員会 20名
活動名	西小グリーンマックス		
指導者	校内指導者： 前田修郎 学外支援者：学校応援団栽培班花壇ボランティア（代表 西城，畑間）		

### 目標

校内緑化活動を通して緑に親しみ、自然を大切にできる心情を育てたり収穫したものを実生活に生かしたりして自然と共生する心を育てる。

### 成果

○堆肥と土を混ぜて土作りをしたことで、良い植物を育てるには栄養たっぷりの土作りをすることが大切だと学ぶことができた。また、腐葉土は一度日に当て不必要な雑菌や虫がいなくなってから混ぜ合わせ、少し寝かせてなじませてから苗などを植えるとよいと学習した。

○5月「土づくり」6月「球根・苗植え」7月「ひまわり・葉ボタンの移植」「ゴーヤの種とり」9月「ひまわりの種とり」「花がら摘み」「ゴーヤ収穫」10月「押し花しおり・カード作り」11月「クロッカスの球根植え」「葉ボタンの植え替え」そして毎日の水やり、定期的な草とりと年間を通して植物の生長に関わっていくことができ、豊かな心が育った。

### 感想・課題等

- ・9/10（土）学校公開で、えどがわエコセンターによる環境学習を実施。保護者から、次のような感想が寄せられた。
  - ・エコセンターの方々が子どもたちに実際に道具を使って行って、分かりやすく大変良かったと思います。
  - ・子どもは環境について考える良い機会になり、学習したことを家族に説明してくれました。
  - ・環境の学習では、ビデオや体験を通して子供たちに分かりやすく説明してくれました。
  - ・温暖化について学び、私（保護者）の方が勉強になりました。（など多数）
- ・学校応援団・栽培花壇ボランティアの方と一緒に活動してきたことで、一年を通して四季折々の植物を育てることができた。
- ・これまでは、花の水やりや草むしりなど奉仕的な活動が多かったが、エコについて考えたり実践したり、植物を使ったカード作りをしたりと文化創造的な活動へと幅を広げることができた。
- ・対象者が、栽培委員会、5年児童学校応援団栽培花壇ボランティアの方、5年の保護者と限られていたので、学校全体へ呼びかけるなど、活動の様子や成果を広く呼びかけ、エコ意識や緑化運動の機運をもっと高める必要があった。



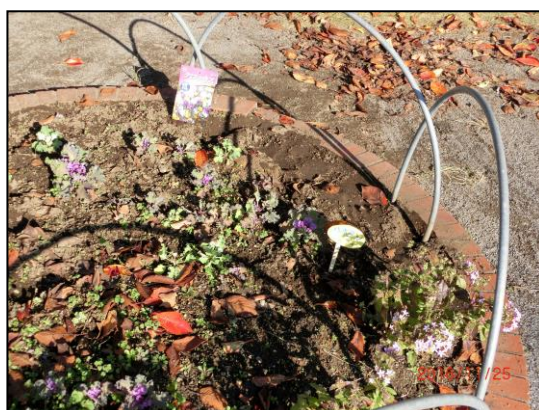
学校名

下鎌田西小学校

活動報告（活動写真）



おし花カードを作り、  
学芸会の招待状と併せて  
おうちの人にプレゼントしました。



クロッカスの球根を植えました。



葉ボタンを植え替えました。

平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	本一色小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	本一色グリーンプラン		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：えどがわエコセンター 大和地 弘一（出前授業講師）		

### 目標

- ・植栽活動を通して、自然や環境に関心を持ち、生命尊重や自然を大切にする態度を育てる。
- ・リサイクル活動などを通して、環境保全やリサイクルに対する意識を高める。

### 成果

- ・環境教育プログラムより、エコについて学び、子供たちの環境への関心を高めることができた。
- ・学校農園、学級園、田、鉢植えなどいろいろな植物を育て、収穫することで、生命尊重や自然環境を大切にしようという心情を養うことができた。
- ・環境委員会を中心に、校内のごみの分別を推進したり、学校環境保全に努めたり、子供たちの環境を守ろうとする意識を高めることができた。

### 感想・課題等

- ・学校農園では、ナス、キュウリ、トマト、落花生、バジル、コスモス、ひまわりなど多くの種類の植栽活動をしたが、天候などの関係で十分収穫できなかった。その中で落花生とひまわりが育ち、収穫の喜びを経験できた。グリーンプランの予算で、草刈り機を整備した。夏季休業中の管理を毎年苦慮していたが、今後は学校農園の管理がしやすくなるだろう。今後も、学校農園については、年間を通して計画・立案をして活用していく。
- ・春にチューリップが咲くように、秋に1、2年生と3年生以上の科学クラブがチューリップの球根を各自の鉢に植える活動をしたが、愛着を持って育てようとしている。全学年で植栽活動が、生活科や理科だけでなく、他教科や環境教育と関連して幅広く学習が進められるようにしていく。
- ・3年生は、環境教育プログラムの「エコにやさしいことをしよう」でエコについて学んだことで、節水、節電、買い物のエコバックなど実践している児童が増え、環境に対する意識が高まった。今後は、これを他学年にも発信して広げていく。
- ・環境委員会では、定期的に紙のリサイクル活動をしている。また、代表委員会では、秋には朝の時間に落ち葉の清掃を自主的に行うなど、子供たちの環境保全の意識も高まった。このような意識と行動を高めていけるように指導していく。



学校名

本一色小学校

活動報告（活動写真）

落花生の収穫



ひまわりの種の収穫



チューリップの植え付け(2年生)



チューリップの植え付け(科学クラブ)



リサイクル活動(環境委員会)



落ち葉の清掃(代表委員会)



平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	篠崎第二小学校	対象学年と人数	全校 395名
活動名	学校緑化アーカイブ		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：用務主事、PTA えどがわエコセンター 高木 嘉雄（江戸川区子ども未来館） 高橋 利行（NPO 法人 生態教育センター）		

### 目標

- ・学校全体の緑化事業について、継続的に記録を行う。
- ・植物栽培の記録を通して、手入れをする児童や教職員の意識や意欲を向上させる。
- ・学校ホームページを通じて、本校の緑化活動の様子を広く、一般の方々にも周知していく。

### 成果

- ・理科栽培委員会を中心に「こどもエコクラブ」に入会し、校内の白花ホウセンカ等の栽培を通じて、自然と触れ合い、自分たちで自然を守っていくという意識が芽生えた。
- ・1、2、3年生が、えどがわエコセンター主催の出前授業、環境教育プログラム「身近な生きものにふれてみよう、生きものさがし」を受講し、身近な篠崎公園や江戸川河川敷の自然に触れ、たくさんの生きものが身の回りにいることを知った。
- ・各学年の植物栽培の様子や地域の方のボランティアの様子について、学校ホームページを通じて、広く周知することができた。

### 感想・課題等

- ・えどがわエコセンターの環境教育プログラムを出前授業にて1、2、3年生で実施することにより、児童が身近な自然について興味関心を高めながら、環境学習を行うことができた。また、教員自身も自然教育や環境教育について、意識付けにもなり、今後の理科や生活科における指導にも役立てていける有効なプログラムであった。
  - ・学校ホームページにて、学校の自然や環境教育を紹介していくことで、教職員の環境に対する意識が向上した。また、学校園における植物栽培についてアーカイブすることにより、次年度の活動に多いに参考になると期待される。
- 【課題】・植物栽培については手入れが難しく、地域のボランティアの方などの協力を得ながら、地域全体として、学校園をより豊かにしていきたい。
- ・より体系的な学びを深めるために、出前授業の継続的な活用を次年度年間指導計画に取り入れていきたい。



学校名

篠崎第二小学校

活動報告（活動写真）



1年生 トウモロコシの皮むき



2年生 ミニトマトの栽培



4年生 ゴーヤの栽培



5年生 米作り



9月6日（火）「生きものさがし」



9月20日（火）「生きもののすみかを見つけよう」



○（9/6（火））1年生が上篠崎はなの広場で虫捕りをしました。エコセンターからゲストティーチャーを招き、虫捕りのコツを聞き、楽しく捕まえることができました。  
○（9/20（火））2、3年生は、当日は天候の関係で、多目的室にて事前に採取していただいた身近な虫について、分かりやすくご紹介していただきました。

平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	下小岩第二小学校	対象学年と人数	5年生
活動名	緑のカーテンづくり、花の植え付け		
指導者	学内指導者： 小高 美和		

### 目標

エコセンターの方に来ていただき、地球の環境問題について、5年生の子どもたちに地球温暖化の原因や影響、現状等を伝える。また、地球温暖化への取り組みとして世界や日本、江戸川区の活動を学ばせる。

学校で緑のカーテンを作り、エアコンの消費電力を抑え、省エネ効果を高めるなど具体的な効果を見聞に知らせるとともに、植物を育てる活動を通して自然や生命への興味関心や畏敬の心を培い、環境共生を実践しようとする態度を育てる。

### 成果

エコセンターの方の授業を通して地球温暖化の現状や地球環境を良くしていく努力をすることの大切さを児童に考えさせることができた。また、緑のカーテンや植物栽培の活動を通して生産の喜びや校内景観の美化に貢献する喜び、心理的な安らぎや快適性を感じさせることができた。さらに教科学習とも関連させることで、自然や生命への興味関心、畏敬の心を育み、地球環境を守り維持することの大切さを考えさせることができた。

### 感想・課題等

- 都市化された生活環境の中で、身近な自然とふれあう機会が少ない児童にとって、環境教育は、その重要性は理解できるものの、興味関心をもちにくい分野である。教える側にとっても知識の伝達に偏りがちとなる。そうした中でエコセンターの方が来校し、実態に合わせながら様々な教材を用いて体験的な学習をしていただいたことは、児童にとって大変貴重な機会となり、環境共生を意識するきっかけとなるような学習の場とすることができた。

- 植物栽培等にかかわる予算をいただいたことも大変ありがたいところであった。

今回は5年生を対象とした活動であったが、今後は発達段階に応じながら全児童に対してより一層充実した環境学習が展開できるよう図っていきたい。



学校名

下小岩第二小学校

活動報告（活動写真）



平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	北小岩小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	①石油について考えよう②自然のたより③みどりの教室 ④給食残食ボード⑤花壇ボランティア⑥グリーンカーテン⑦桜守の活動		
指導者	学内指導者：校長奥澤弘子 各学年担任 学外支援者：東京海上日動火災保険株式会社 PTAの方々		

### 目標

自然環境・生活環境の中のさまざまな面から環境問題について学ぶことで、環境問題について興味をもち考えるきっかけにする。

### 成果

低学年は主に、学校の中の植物や、生き物、みどりのカーテン作りなどの身近な自然環境に親しむことができた。自分で見つけた植物の葉や実の紹介や、プールにいたヤゴの観察などを通して、それらが生きている、という事を体験の中から学ぶ事ができた。

中学年では、外部機関の方と連携し「桜守の活動」「みどりの教室」などで、地球環境の保全について学ぶ事ができた。

高学年では、石油から環境問題について考え作文を書いた。自分たちの生活が地球環境に及ぼす影響についてや、石油が地球の資源という事に気が付き、自分の生活を見直そうとする事ができた。

### 感想・課題等

当初の計画と異なる部分もでてきたが、地球を取り巻く問題として様々な面から活動を行うことができた。また、高学年で行った石油についての話や、4年生で行った「みどりの教室」など、担任ではない方からの指導やお話によって興味をもって活動することができたと感じている。環境問題に関する出前講座などは様々なものがあるため、今後もお願いするなど協力して行っていきたい。

今回は、各学年の実態から興味をもちそうなことを中心に考えて行ったが、1年生から継続して行えるような活動ができると、児童にとってより深く環境問題を考えるきっかけになると感じた。例えば、1・2年生では校庭の植物や生き物を見つける活動、3・4年生では桜守の活動と合わせて、校庭の植物や生き物の名前などを調べる活動、5・6年生では校庭の動植物マップを作る活動など、継続して行えるようなものを考えていきたい。



## 活動報告（活動写真）

学校名

北小岩小学校



①石油について考えよう。(5・6年生)  
普段は教わる機会のない校長先生からのお話でした。



③みどりの教室(4年生)  
マングローブの植林から、気候変動の話や光合成、植物の果たす役割について学びました。



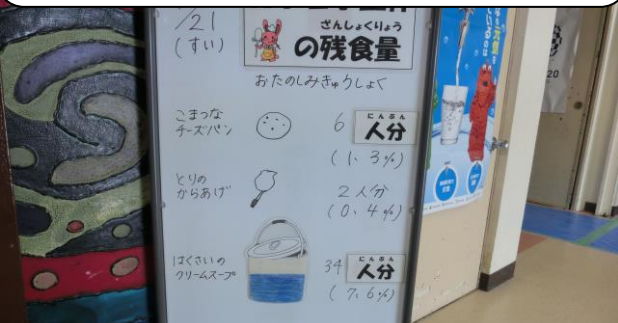
⑤花壇ボランティア(PTA)  
季節に合わせて草花を変えて育ててくれています。子供たちも楽しみにしています。



⑦桜守さんとの活動(3・4年生)  
桜守さんと、校庭にある桜の木の保全活動などを行っています。



②自然のたより(1・2年生)  
葉っぱがちくちくすることを発見しました。校庭の草花に目を向けるようになりました。



④給食残飯ボード(給食部)  
前日の残食量を見て、残さない工夫などを各クラスで考えるきっかけになります。



⑥みどりのカーテン(3年生)  
毎年気温が上がる放送室も今年は少し快適になったでしょうか。



## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	瑞江第二中学校	対象学年と人数	全学年 385名
活動名	Clean & Green Project		
指導者	学内指導者：山口孝（校長）、大林博（副校長）、中嶋靖（美化担当）、学年主任、用務主事 学外支援者：江戸川区土木部、えどがわ環境財団、本校PTA、PTAOB会、学校応援団 （役割分担）全体統括：校長、花壇整備：副校長 美化担当 地域清掃・公園美化：学年主任		

### 目標

- ① 学校花壇の整備を通し、緑化や美化の推進に対する意識を高める。
- ② 地域の清掃を通し、生活環境を美しく保つことの大切さを体験的に学ぶ。
- ③ 学校応援団、PTA、PTAOB、用務主事等の様々な方とのふれあいを通し、地域に貢献することの意義を学ぶ。

### 成果

- 1 生徒の環境整備に対する意識が高まっているため、ボランティアの人数制限を撤廃したことにより参加人数が増加した。作業も丁寧であり地域の方より感心されていた。
- 2 近隣公園の清掃や緑化活動を通して生活環境を美しく保つことの大切さを学び、校内壁磨きボランティア活動などへ活動の幅が広がっている。
- 3 PTAやOB会の方とのふれあいを通して地域の一員であることを自覚することができた。
- 4 持続可能な社会に必要とされる能力を生徒に意識づけたことで校外学習や林間学校のフィールドワークを通して深く考える力がついた。50周年行事がよい成果発表の場となった。

### 感想・課題等

グリーンプランを推進するにあたり、生徒の「考える力」と「心を育てる」ことができた実感している。

花壇整備、近隣公園の清掃及び緑化、地域清掃、環境教育等の活動を進める中で生徒は持続可能社会の実現に向けて自分に何ができるかを考えた。生徒総会での花壇整備に対する意見や要望、新たな環境整備活動への広がり等にそれが表れている。

また、花壇の広さの都合で生徒ボランティアの人数制限を設けていたが、今年度から撤廃したことにより参加者が増加した。今後、花壇や近隣公園だけではない場所を新たに検討していく必要がある。教室や廊下が美しく保たれ、一時期のいわゆる学校の荒れが収まっている。

林間学校や校外学習のねらいにも環境教育の視点を設定したことにより、各教科との横断的なカリキュラム開発ができた。



活動報告（活動写真）



各教科との横断的なカリキュラム開発



林間学校「那須神社清掃ボランティア」



本校の自慢「学校花壇づくり」



民泊先で地域の課題について協議



東部フレンド公園 清掃・緑化活動



学芸発表会・50周年記念式典  
持続可能社会の実現に向けての発表

平成28年度

## えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	小岩第四中学校	対象学年と人数	2、3年有志10名 および1年生全員
活動名	学校や地域に緑を増やそう		
指導者	学内指導者：鈴木 幸雄（副校長） 高橋 知之（1年学年主任） 学外支援者：若松喜美子（学校応援団 団長）	学校園担当 プランター担当 菊づくり担当	

### 目標

学校や地域に緑を増やし、環境に対する意識を高める。

そのため生徒有志によるグリーンスタッフを編成し、①～④の活動をする。①学校応援団とともに菊づくりに挑戦する ②学校園を整備し、さつまいもを栽培する ③ゴーヤカーテンをつくる ④プランターをつくり、地域を飾る

### 成果

グリーンスタッフ10名が次の活動を通して、緑化活動に対する意識を高めることができた。

- ①学校応援団に指導いただき、苗から管理して、菊を開花させることができた。玄関にきれいな花を飾ることができた。
- ②さつまいもを6月に植えてから10月末の収穫まで管理した。生徒が思っていたより多くのさつまいもを収穫できた。雑草を抜いたり、水をあげたりすることから、作物を育てることの大変さを学んだ。
- ③ゴーヤを栽培し、ゴーヤカーテンを完成させた。夏の強い日差しを遮る様子が観察でき、室温を下げるのに効果的なことが分かった。ゴーヤもたくさん収穫することができた。また、3学期には1年生が苗木をプランターに植え、安定したら地域に設置する予定である。みんなで環境の良い街をつくろという気持ちを育てることができると期待される。

### 感想・課題等

#### (1)グリーンスタッフの生徒の感想

- ・雑草は数日で生え、一か月もしないうちに大きく成長していた。その成長の早さに驚いた。農園を管理するのがいかに大変なこと分かった。
- ・さつまいもがまっすぐ育たなかったことについて、土を耕すのが不足していたことがよく分かった。作物にも愛情をかけなければいけないと思った。
- ・ゴーヤやさつまいもを家に持ち帰って食べた。自分で育てたものはとてもおいしかった。
- ・菊づくりのノウハウを教わった。一輪の花を咲かせるにも手がかかることが分かった。今度やるときは、もっと大きな菊を咲かせたい。

このように、グリーンスタッフの生徒は、このようないろいろな活動を通して、緑化活動の大切さや楽しさを知るよい機会となった。

#### (2)課題

この活動が一部の生徒に限られている。本来は全校生徒がかかわることが最善と考える。来年度以降は、総合的な学習の時間に、「環境」として時間を設け、活動を継続させたい。



## 活動報告（活動写真）



①菊づくり 苗の段階から育て始めた。学校応援団の皆さんのご指導のもと、毎日の水やりや輪台付けなどを行った。今年は、生育が悪く、三本立ちまではいかなかった。



②ゴーヤカーテン 6月に苗を植え付け、毎日水やりをした。生育は早く、7月下旬にはカーテン状になる。毎週のように収穫できるほど、ゴーヤが獲れた。



③さつまいも 学校園にさつまいもを植えた。雑草を取り除くのに手間がかかったが、10月下旬の文化祭前に収穫をした。20キロを超えるさつまいもが獲れた。文化祭で展示した。





---

発行： 特定非営利活動法人えどがわエコセンター

---

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>

---